

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
備前市	吉永町今崎地区	令和3年12月25日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	23.1ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	19.1ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	12.3ha
うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	7.5ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	ha
(備考)アンケート回答率82.8% 現状において、70才以上の所有者は32人/54人、割合は59.3% 70才以上の農業者の耕作割合は64.2%であった。	

- 注1:③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

今崎地区の現状を話し合い、長所と課題を洗い出した。

今崎地区の長所

- 自然環境 災害が少ない・水がきれい・静かな環境・緑ゆたか
- 地域のまとまり まとまりがある・結束力がある・生まれ育った場所

今崎地区の弱み

- 高齢化担い手不足 ・後継者がいない・若い人が少ない・学校がなくなり子どもも減少している
- 自然環境 ・草管理が大変・鳥獣被害・日照の悪いほ場もある・固い土のため、農作物に限られる
- その他 ・ため池の管理が大変・いずれ、ため池の改修が必要・お店が少ない

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

多面的機能支払い交付金対象農地を優先して集積をする。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(話し合いに基づく取組の方向性)

集約化の話し合いを進めていく。
所有者が耕作出来ない所は、可能な限り荒らさないようにする。
草刈りの負担を減らすために、再度の基盤整備も検討する。